

平成30年度 大田区立大森第四小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

- ・昭和8年開校、今年度開校85周年目を迎える。平成26年度から校舎改築に向け基本構想・基本計画を策定。平成29年度より新校舎建設工事(第1期)開始。平成31年度新校舎(第1期)供用開始予定。
- ・平成24・25年度大田区教育委員会教育研究推進校に指定。「学び、かかわり、自己を高める子の育成」(生活科・総合的な学習の時間を通して)を研究主題とし、地域を生かした学習活動を展開し、現在もスクールサポート大四と連携を図り、継続して推進している。
- ・平成26・27年度東京都教育委員会オリンピック・パラリンピック教育推進校(研究開発校)に指定。「自己肯定感を高める指導の工夫」(すすんでかかわり、自己のよさを発揮できる子の育成)を研究主題とし、2020年東京オ

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 及び 今後の改善策	コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が95%以上である。	3 91.1%	・大田区学習効果測定の結果(学習カルテ)及び、算数ステップアップ学習状況等を基にして、夏季休業中に面談を実施し、児童の学習状況を児童と保護者に伝えている。効果的な家庭学習の方法について話をし、一人ひとりに計画を立てさせ取り組ませた。家庭学習を充実させるために、内容や保護者をお願いすることを示している。学年だよりにも、「家庭学習のすすめ」ということで、具体的な学習内容を毎月お知らせしている。今後も続けていく。 ・低学年は大田区外国語活動として年8時間、中学年は新学習指導要領をふまえて年35時間の外国語活動、高学年は50時間の外国語を行った。放課後には「英語カフェ」を行い、ALTと英語でコミュニケーションを取る経験を積ませた。4月には外国語教育についての教員研修会を行った。今後も研修等の充実を図り、児童が英語に慣れ親しんだりすすんでコミュニケーションが取れたりできるよう指導の工夫をする。 ・授業改善推進プランを基に、夏季休業中に学力向上研修会を実施し共通理解を図った。D層(学力下位層)の児童に対する具体的な指導の手立ての工夫や改善を進めていくとともに、C層の児童の底上げを図っていく。 ・算数の基礎学力定着のために「大4算数検定」と「大田区漢字検定」を年2回行っている。補充プリントを配布し、繰り返し問題に取り組ませることで、効果が上がっている。次年度も継続して取り組んでいく。	・保護者アンケートの肯定的な評価の低下が気になりますが、意見を聴きながらも取組を進めることが大切だと思います。 ・改善案において工夫とあるが、どのように工夫するかの方角性を見えているのかわかりにくい。 ・算数基礎学力において漢字検定とどのように結びつくのか。 ・新しく外国語の授業が始まり、国際的な人物になることが期待される。 ・C層・D層の児童に対するサポートを厚くすることを期待する。 ・学力を保護者に伝え、個人で計画を立て実習する自覚を教える。 ・英語はこれから特に必要課題として覚えの良い子供のうちに力をつける。 ・算数と書くことは人生にとって一番大事ですので頑張っ てほしい。 ・様々な子供たちが勉学する区立学校の中で3番目の取組評価は立派だと思う。 ・家庭学習は大事だと思います。 ・児童の学力向上はなかなか大変だと思いますが、取り組みをお願いします。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が90%以上である。			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が85%以上である。			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1:児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が85%未満である。			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。				
		大田区漢字検定・大4算数検定等を目標とした、基礎的な学力の向上を目指す指導を行う。				
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	2 83.4%	・「元気にあいさつをしよう」を年間生活目標として取り組んだ。縦割班による朝の挨拶運動の実施等により成果が上がり、日常的に挨拶ができる児童が増えてきた。年4回の小中一貫教育の会(大森一中との教員研修)を通して、学習や生活ルールの共通理解を図った。今後共通して指導する内容を確認し、きまりやスタンダードに加えていく。 ・道徳授業地区公開講座(6月)では道徳授業公開及び「豊かな心発表会」を行った。今年度からは「特別な教科道徳」になり、指導内容の充実や評価の仕方について研修会を行った。 ・学校生活調査(メンタルヘルスチェック)を実施し、児童の心の状況を把握し、心配に応じてスクールカウンセラー・サポートルーム・支援員等と連携を図り、面談を行った。次年度も継続実施・充実を図る。 ・学校いじめ防止基本方針を基に、今年度実施計画を策定し実践してきた。児童アンケート調査や面談を基に、いじめ問題の早期発見、早期対応に努めた。SNSに関するトラブル発生に対しては、その都度学校ルールの徹底を児童・家庭に呼びかけている。 ・問題行動に対して、ケース会議を随時実施し、対応を図ってきた。また、不登校児童については、スクールカウンセラー、不登校支援員、子ども家庭支援センター、児童相談所等と連携を図り、取り組んできた。家庭内の諸問題に対しても関係機関と連携して児童の保護に努めている。 ・縦割班活動として、1学期はお迎え給食、2学期は子ども遊び集会、3学期はお別れ給食を実施。あいさつ運動、クラブ・委員会・吹奏楽部などを通して異学年児童相互の交流が深まっている。	・問題行動や不登校児童の見守りにも民生・児童委員や地域の力を利用して下さい。 ・成果指標の評価が下がっているが、新たな改善策として最初の挨拶の部分の「きまりやスタンダード」としか無く、大丈夫なのか？ ・小学生のSNSはルールとマナーを十分に教えないといけない。 ・特に朝の挨拶はその人の心身の調子が分かると言われる位ですから、続ける事。 ・私たちが生活していく上で道徳は基本であるので身につけさせたい。 ・いじめ対策には早期発見が一番です。 ・縦割り班は近所の人を知る上で良い方法ですので続けてほしい。 ・担任一人で抱え込むことにより偏向しがちな問題もあると思う。学年・学校といういろいろな考えを結集して子供一人一人に対応していただきたい。 ・不登校の家庭の問題に関して、民生委員等地域と連携ができればと思います。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が85%以上である。			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2:学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が80%以上である。			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1:学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が80%未満である。			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。				
		1～6年生の異学年集団による縦割班活動を通して、思いやりや協調性など豊かな心を育てる。				

体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を上回っている。	2	・体力向上の取り組みとして、体育朝会では年間を通して「大四体操」「ストレッチ」「大縄」「コーディネーショントレーニング」を行っている。さらに、児童の課題を把握し、一学級一取組の内容を検討し、実践している。改築に伴い、校庭が狭くなっているため、体育朝会を低・中・高学年に分けて行うなど、運動量の確保に努めている。 ・5月と10月の「早寝・早起き・朝ごはん」推進月間では児童一人一人に「チェックシート」を配布・実践。今後も家庭に啓発していく。 ・毎日給食委員会の児童による昼の放送での献立の解説、各学級を巡回して栄養や食事のマナーなどのプレゼンテーションを行っており、食事や健康について考える機会をとっている。また、オリンピック給食の献立を工夫し、国際理解へとつなげた。今後も継続・充実させていく。 ・3学期には体育健康授業地区公開講座を予定しており、体育や健康について特別授業を行う。併せてオリンピック・パラリンピック教育も各教科の中に位置付けて、年間を通して実施している。	・校庭が狭い中、工夫されていると思います。 ・ここでも成果指標の評価が下がっているが、どのように改善するのか？ ・校庭の狭さで運動能力が伸びにくいのは仕方ないですね。 ・校庭が狭く、運動量が少なくなるが、体力向上に向けて頑張ってください。 ・子供は子供なりの体力を付ける。 ・工事中なので場所の問題もあり大変ですが、工夫して頑張ってください。 ・食事は家庭でも、毎日の事で大変ですが、健康体力向上のためにお願いします。 ・校内での運動においては現状では最大限の努力をしていращやると考えられます。 ・校舎改築で運動できる場所が減っている中、様々な取り組みをさせていただいているのが感じられる。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均とほぼ同様である。			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を下回っている。			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を大きく下回っている。			
		校舎改築の影響を最小限にとどめるよう運動量の確保に努め、体力向上に関する授業を実施する。体育・健康教育授業地区公開講座や保護者会、学級だより等で体力づくりの重要性やその方法を地域・保護者に向けて啓発を行う。				
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	2 83.9%	・授業公開日の授業評価では、肯定的な評価もある一方で、今年度は様々な面でのご指摘もいただいている。今後も校内研究授業や若手研修、OJT等を通して児童が主体的に学べるよう、そして基礎的な学力が身に付くように、教員一同授業改善に努めていく。 ・若手研修会では、若手自身が課題を設定し、自ら調べたり主任教諭からの助言を受けたりして解決していく形式に変えた。自主的に研修に取り組むことができ、指導力向上につながった。 ・教育委員会の研修会や他校研究発表会に全教員が参加。資料は回覧・共有し指導に生かした。 ・デジタル教科書やインターネットなど、ICTを積極的に活用することが可能になり、授業の工夫・改善を進めている。 ・特別支援教室(サポートルーム)の巡回指導教員と連携し、毎月定例的に校内委員会(たんぼぼ委員会)を実施し、特別な支援が必要な児童の把握と、その対応策についての検討した。次年度もさらに充実を図っていく。 ・校長・副校長による授業観察・指導を全教員年間3回実施。また、1～4年次教員の研究授業を実施し教員の指導力向上に努めた。若手教員がベテラン教員から日常的に学ぶOJTを推進し、学級経営力や指導技術の向上に努めている。また、「確かな読みの力を育てる学習指導の工夫 ～国語科「読むこと」を通して～」として、6回の研究授業を実施。自分の考えをもち、友達と伝え合うことができる児童が増えている。次年度も校内OJTや校内研究会を充実させ更なる授業力向上を目指す。	・若手自身が課題設定とあるが、まだ引き出しが少ない中で果たして高い水準の課題設定ができるのかどうか？ ・また、自ら調べるや、主任教諭の助言を受けるのは今までも同じではないか。 ・若い教員が多いと感じる。ベテラン教員によるサポートが必要だと感じる。一番いいのは教員の増員だが、予算的に、難しいだろう。 ・先生方は教員として教壇に立っても時には変わる ・各家庭での教育環境作りを念頭においてほしいものです。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が85%以上である。			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が80%以上である。			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が80%未満である。			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。				
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	3 87.7%	・学校ホームページでは、移動教室や学校の教育活動を随時公開した。また、各学期1回の学校公開、学校行事、研究授業の公開等で学校の教育活動を公開するとともに、アンケートにより保護者や地域の方の声を集め、改善に努めている。次年度も継続・充実させていく。 ・地域連絡協議会開催日を学校公開日に合わせることで、児童の様子を見ての感想等を指導の改善に役立ててきた。また、日頃の教育活動や学力・体力等の状況について情報提供を行うことに努めた。今後も継続していく。 ・「学校支援地域本部(スクールサポート大四)」と全教員との打合せ会を年2回実施。生活科や総合的な学習の時間等における地域の人や施設・自然等と関連した学習、夏休み子どもクラブ、ふれあい交流会、海苔つけ体験等で、地域の教育力を積極的に生かした教育活動が展開できた。次年度も、地域力を生かした教育の一層の充実を図る。 ・PTA読み聞かせ部の協力により、児童に読書の楽しさを伝えることができた。 ・「学年×10分間」の家庭学習を推進し、保護者会や毎月の学年便りで家庭に啓発を図った。今後も継続していく。	・地域の力を活用すると同時に、家庭に対する働きかけも粘り強く進めてほしい。 ・地域・PTA・スクールサポートなどが関係すること、またそれ以外でも私自身支援していこうと思っています。 ・スクールサポートやPTAには効果的に協力してもらってください。 ・保護者や地域の人に教育現場を見ること、見せることががふれあいの場にもなる。 ・地域には何事にも力のある持ち主がいます。発掘をして色々な面で知識力・地域力を深めていく。 ・地域の専門家・専門職の方が様々な形でお手伝いいただけることは素晴らしいですが、世代交代が上手いにくいように地域が考えなくてはならなくなってきたように思います。 ・学校ホームページは、より学校の活動を見ることができるので今後も継続してほしい。 ・学校公開や地域教育連絡協議会では学校の状況を知ることができてよかった。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が85%以上である。			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が80%以上である。			
		地域や保護者による読み聞かせ等を実施し、家庭の教育参画意欲を高める。	1:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が80%未満である。			
		毎日家庭で(学年×10分)の学習を推奨し、取り組む。				

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。